

（資料 2）現任研修（モデル研修）の検討と整理

資料 2-1 モデル研修実施経過

資料 2-2 モデル研修参加者における事前・事後評価

資料 2-3 モデル研修参加者・インタビュー調査結果・考察

資料 2-4 モデル研修の振り返りおよび考察

資料 2-1 モデル研修実施経過

研究協力者：富岡 貴生

平成 28 年相談支援従事者研修のプログラム開発と評価に関する研究を踏まえ、カリキュラム内容を一部変更し、以下のように実施した。

1) モデル研修実施経過

①研修カリキュラムの変更

1 日目の講義は、演習ガイダンスを 1 日目だけではなく、2 日目以降もガイダンスを行い、演習目的等を説明する時間を増やすことに変更した。次に、個別支援・チームアプローチ・コミュニティワークの講義は、地域を基盤としたソーシャルワークの全体の概要を説明した後に、個別相談支援・チームアプローチ・コミュニティワークの講義を行うことで、それぞれのつながりが意識できるよう変更した。

2 日目の個別相談支援の演習では、まず講義は、2 日目の講義を踏まえ、自己例を通してインテークやアセスメント、モニタリングの場面での意思決定支援の展開、講義後にセルフチェックが行いやすいようセルフチェックの内容も加えた説明へと変更した。次に、事例検討・GSV では、受講者 3 人を想定して事例検討を行うことになっていたが（3 日目に他の 3 人の事例検討を行う）、全事例の報告・検討ができたほうが 3 日目以降の演習につながりが持てることから、全事例の報告（検討含む）へと変更した。

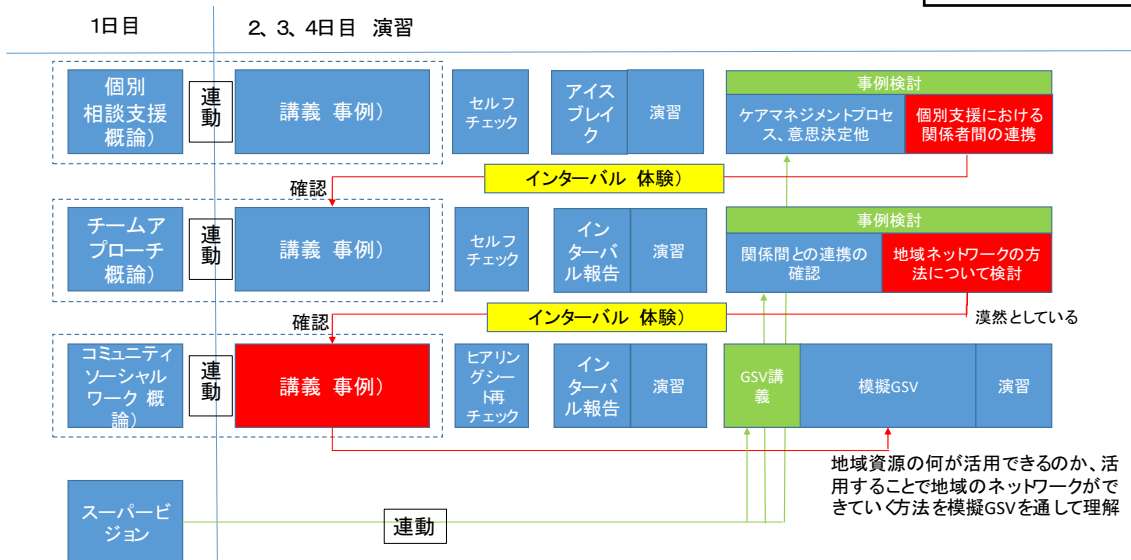
3 日目のチームアプローチの演習では、まず講義は、1 日目の講義を踏まえ、事例を通してチームアプローチの展開、講義後にセルフチェックが行いやすいようセルフチェックの内容も加えた説明へと変更した。次に、事例検討・GSV では、2 日目で検討した各参加者が持ち寄った事例の支援課題に対して、インターバルで行ってきたことを報告する場面を設けること、その中から 4 日目で行う事例検討・GSV の中で検討するのに適した事例を 2 事例選択することへと変更した。

4 日目のコミュニティワークの演習では、まず講義では、1 日目の講義を踏まえ、事例を通して自立支援協議会の機能や展開や講義後にセルフチェックが行いやすいようセルフチェックの内容も加えた説明へと変更した。次に、演習では、模擬 GSV と演習の順番を変更し、模擬 GSV を行った後に 3 日目で選択された 2 事例に対して地域資源の活用（インフォーマルサービス）を検討、その後にセルフチェックではなく主任相談支援専門員の業務を参考にしたヒアリングシートをチェックすることへと変更した。

主に変更したポイントについては資料 1（変更前）、2（変更後）を参照していただきたい。また、相談支援従事者現任研修カリキュラムの内容については資料 3 参照。

現任研修の構造

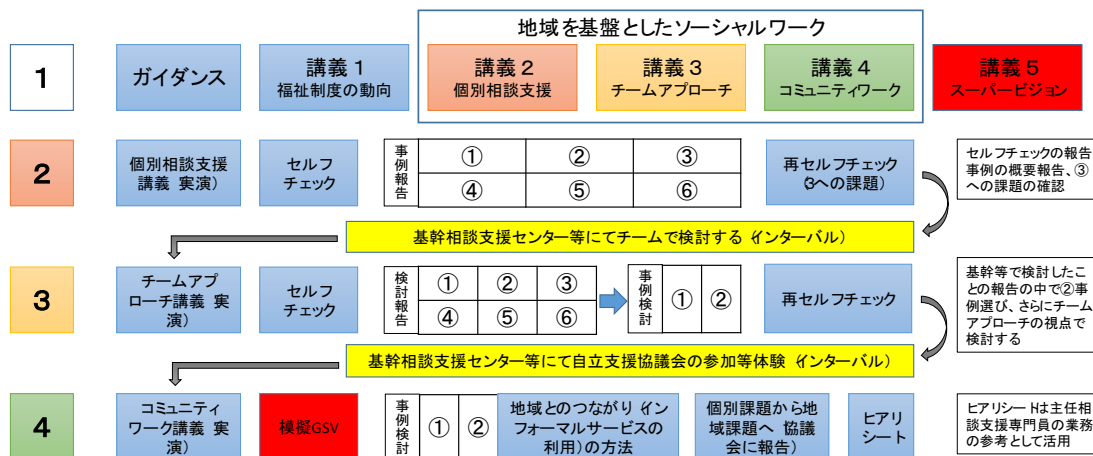
資料 1 (変更前)



資料 2 (変更後)

現任研修の構造

- 獲得目標
- ①相談支援の基本的業務を確実に実施できる。
 - ②チームアプローチ(多職種連携)の理論と方法を理解し、実践の中でチームアプローチが実践できる。
 - ③コミュニティワーク(地域とのつながりやインフォーマルの活用等)の理論と方法を理解し、実践できる。



相談支援従事者現任研修 たたき台

資料3

獲得目標	<p>① 相談支援の基本的業務を確実に実施できる。【意思決定(支援)を通して生きがいや自己肯定感を高める支援(ストレンクス)、相談支援の技術と能力の獲得】</p> <p>② チームアプローチ(多職種連携)の理論と方法を学び、実践においてチームアプローチが展開できる。【チームアプローチ(多職種連携)を実践するための技術と能力の獲得】</p> <p>③ コミュニティワーク(地域とのつながりやインフォーマルサービスの活用、社会資源の開発等)の理論と方法を理解し、実践できる。【地域に即した相談支援の実践力の獲得】</p> <p>④ ①～③について支援の妥当性を得るためグループスーパービジョンの理論と方法を学び、実際の事例を用いてグループスーパービジョンを体験することで、自らの支援について指導・助言を受ける重要性を理解する。</p>
------	--

研修の進め方	<p>事前課題(①②③)→講義→セルフチェック→演習→事例検討(スーパーバイズされる体験)</p> <p>* 演習は全員が司会を行う(ファシリテーションもしくは担当者会議における司会進行の技術獲得が目的)</p> <p>* 演習における標準グループ数は6名を想定している</p>
--------	---

事例提出	<p>事前課題①(2日目で使用)は、事例の概要、簡易なアセスメント、支援の経過が分かるよう時系列に記載する</p> <p>事前課題②(3日目で使用)は、事例の概要、家族関係、関係機関とのつながりが分かるようエコマップを用いて記載する(①の事例でなくても良い)</p> <p>事前課題③(4日目で使用)は、地域変革のためのヒアリングシートに記載する</p>
------	---

インターバル報告書作成	<p>①2日目終了後、基幹相談支援センター等でのインターバルの内容、感想等について報告書を作成</p> <p>②3日目終了後、基幹相談支援センター等でのインターバルの内容、感想等について報告書を作成</p>
-------------	---

項目	0.5h	1.5h	3h	1h
講義1日間	ガイダンス	福祉制度の動向(地域生活支援事業含む)	<p>「地域を基盤としたソーシャルワーク(相談支援)」</p> <p>①個別相談支援(相談支援の過程における意思決定支援)</p> <p>②チームアプローチ(多職種連携/個別相談支援・地域支援におけるチームアプローチの展開)</p> <p>③コミュニティワーク(個別の支援から地域支援への展開)</p> <p>*主に概論の話が中心</p>	スーパービジョンの理論

項目	講義(9:00~10:00)	セルフチェック	演習	事例検討・GSV(13:00~17:00)
2日目	<p>①個別相談支援</p> <p>1日目の講義を踏まえ、相談支援における①基本相談、②信頼関係の構築、③意思決定(本人主体とした支援)、④モニタリングの機能について支援場面で配慮できる</p> <p>*主に事例を踏まえた説明</p>	<p>講義内容に留意し、自身の業務と照らし合わせて自己業務の確認を行う</p>	<p>演習</p> <p>セルフチェックシートを使って、自分自身ができているところ、できていないところ、新たな気づき等を報告し、グループ内で共有する</p>	<p>事例検討</p> <p>事前提出された事前課題①の支援経過に対して、①本人の意向、②本人の言葉の意味の吟味、支援者の都合が優先されていないか、④既存の社会資源だけが優先されていないか、⑤結論ありきで話がされていないか、について事例検討を行う。</p>

基幹相談支援センター等でサービス担当者会議に出席(チームアプローチを体験)するための一定期間(一ヵ月)のインターバル

項目	講義	セルフチェック	演習	事例検討
3日目	<p>②チームアプローチ(多職種連携)</p> <p>1日目の講義を踏まえ、①本人を取り巻く支援環境を関係者で支援するチームアプローチ、本人を取り巻く地域環境(社会資源)を地域で支えるチームアプローチの連携方法等について説明できる</p> <p>*主に事例を踏まえた説明</p>	<p>講義内容に留意し、自身の業務と照らし合わせて自己業務の確認を行う</p>	<p>演習</p> <p>①インターバルの中で体験してきたことの実践報告</p> <p>②セルフチェックシートを使って、自分自身ができているところ、できていないところ、新たな気づき等を報告し、グループ内で共有する</p> <p>③チームアプローチの取り組みの課題と支援の方法について協議する</p>	<p>事例検討</p> <p>事前提出された事前課題②に対してグループで共有し、チームアプローチでの講義①②についての具体的な方法等について検討する</p>

基幹相談支援センター等で自立支援協議会の体制等を学び、協議会(専門部会含む)に参加するための一定期間(一ヵ月)のインターバル

項目	講義	セルフチェック	模擬GSV	演習
4日目	<p>③コミュニティワーク</p> <p>1日の講義を踏まえ、①利用者の個別のニーズ(個別課題)に対して何が地域課題なのかを理解する、②地域課題の解決に向けた地域支援ネットワーク(自立支援協議会含む)の方法を理解し、実践することの必要性を述べる事ができる</p> <p>*主に事例を踏まえた説明</p>	<p>講義内容に留意し、自身の業務と照らし合わせて自己業務の確認を行う</p>	<p>演習</p> <p>①1日目の講義を踏まえ、生きがいや自己肯定感を高める支援の必要性を理解し、支援の確認・助言や支援者の抱え込みを軽減する等の効果があるGSVの理解を深める(講義)</p> <p>②構造化された模擬GSV(ストレンクス視点によるGSV・他)を体験し、学習する(演習)</p>	<p>演習</p> <p>①インターバルの中で体験してきたことの実践報告</p> <p>②セルフチェックシートを使って、自分自身ができているところ、できていないところ、新たな気づき等を報告し、グループ内で共有する</p> <p>③地域支援の取り組みの課題と支援の方法について協議する</p>

個別相談支援
 地域を基盤としたソーシャルワーク
 コミュニティワーク(相談支援)
 講義・演習3日間

②モデル研修実施報告（1日目）

この現任カリキュラムは、単独で完結するものではなく、初任者研修との連動性が必要である。そのため、資料3の相談支援従事者現任研修たたき台を踏まえ、初任者研修での講義や演習を意識しながら、二つの研修のつながりにも重きを置きながら時間を短縮して実施した。モデル研修を1日目は、研修の獲得目標、スケジュール等のオリエンテーションを行った後、地域を基盤としたソーシャルワークの概要、個別相談支援、チームアプローチ、コミュニティワーク、スーパービジョンの講義をそれぞれ短縮して実施した。福祉制度の動向については省略。

まず、地域を基盤としたソーシャルワークとして、①地域を基盤としたソーシャルワークの意味、②並行的ニーズの検討機能、③専門機関による地域連携機能、④住民主体の問題解決機能、⑤予防的地域課題解決機能、の概要説明を行った後、個別相談支援では、相談支援における「意志決定支援」として、①初任者研修の振り返り、②意思決定とは、③相談支援過程における意思決定支援、④意思決定支援の着眼点、について、相談支援のプロセスを交えながらの講義を行った。続いてチームアプローチ（多職種連携）では、①連携の定義と用語の整理、②連携・協同・チームの概念整理、③多職種連携の技術、④チームアプローチの展開、について、学術的に多職種連携の概念が整理されていない中で、様々な文献を用いながらの用語の整理を行いながらのチームアプローチの講義を行った。次に、コミュニティワークでは、①相談支援専門員の姿勢、②地域を基盤とするソーシャルワークにおける展開プロセス、③課題解決に必要な仕組み、について事例を交えながら講義を行った。最後にスーパービジョンでは、①スーパービジョンについて、②グループスーパービジョンの特徴、③グループスーパービジョンの進め方、④グループスーパービジョンワークシートの作成、⑤4日目の演習で行う模擬グループスーパービジョンの説明、についての講義を行った。

10月1日(1日目)

時間	項目	担当者	内容	備考
10:00	オリエンテーション	富岡	研修を行う上での説明	
10:30	講義：地域を基盤としたソ	島村先生	03資料 1日目を参照	
10:50	講義：個別相談支援	沖倉先生	03資料 1日目を参照	
11:35	休憩			
12:35	講義：チームアプローチ(多	鈴木先生	03資料 1日目を参照	
13:20	講義：コミュニティワーク	島村先生	03資料 1日目を参照	
14:05	地域を基盤としたソーシャル	島村先生		
14:25	スーパーバイズ	小澤先生	03資料 1日目を参照	
15:05	次回に向けてインフォーマ	富岡	事前課題の説明	事前課題は、1Gから1名に依頼
15:30	終了			

③モデル研修実施報告（2日目）

モデル研修2日目は、カリキュラムでは事前課題の報告と検討、インターバルに向けた課題整理を演習で行うが、ここでは事前課題を参加者の中から1名選び、1事例に対して報告と検討、課題の整理を行った。講義では1日目の個別相談支援の講義を踏まえ、自身の業務を振り返れるよう事例による説明を行った後、演習1でセルフチェックを各自で記載後セルフチェックの内容を通して自己の傾向や気づいた点などを共有し、参加者から助言をも

らう。演習 2 では、個別相談支援の視点を踏まえ、事例提供者による事例の報告と検討を行った。演習 3 では演習 2 で検討した結果を踏まえ、支援課題を共有し、インターバルに向けた課題整理と抽出をグループで行った。カリキュラムでは整理された課題を各自インターバル期間の中で実施し、演習 3 日目に報告することになっているが、ここでは時間的な兼ね合いもあり課題の整理のみ行う。

10月15日(2日目)

10:00	オリエンテーション	富岡	研修を行う上での説明	
10:15	講義:個別相談支援	富岡	03資料 2日目を参照	
11:00	演習1	藤川、富岡	03資料 2日目を参照	セルフチェックシート[1]
11:10	演習2	藤川、富岡	03資料 2日目を参照	事前課題を作成してくれた方のみ報告とする
12:00	休憩			
13:00	演習3	藤川、富岡	03資料 2日目を参照	通常は個人ワークだが、グループで支援の課題を整理する
14:30	次回に向けてインフォーマー	富岡	インターバル期間に行うことの説明する(研修の流れの説明)	事例提出者のみ担当者会議を開催してきてもらうことは可能か インターバル報告書①を作成してもらうことは可能か
15:00	終了			

④モデル研修実施報告 (3日目)

モデル研修 3 日目は、カリキュラムではインターバル期間で実施した事例の報告と検討、さらに 4 日目に行う地域資源を活用した検討をするにあたってグループから 2 事例選出することになっているが、ここではインターバルが行えていないため、通常の支援をインターバル期間として捉え、2 日目に事例提出した方に 3 日目の資料提出を依頼、事例報告・検討を行うことで演習のつながりを持たせた。また、演習 1 は 2 日目とほぼ同じであるが、天候不良のため大幅に時間を短縮せざるを得ない状況が発生したため、セルフチェックの記入と共有は省いた。講義は 1 日目のチームアプローチを踏まえ、事例を通してチームアプローチや担当者会議の進め方等の確認を行った。演習 2 では、事例提供者が新たに作成したエコマップの報告をした後、演習 3 ではチームアプローチの視点を踏まえ、事例に対してチームアプローチの視点に立って支援の検討を行った。

10月22日(3日目)

10:00	オリエンテーション	富岡	研修を行う上での説明	
10:15	講義:チームアプローチ	富岡	03資料 3日目を参照	
11:00	演習1	藤川、富岡	03資料 3日目を参照	セルフチェックシート[2]
11:10	演習2	藤川、富岡	03資料 3日目を参照	1日目に事前課題を作成してくれた方のみ報告とする
12:00	休憩			
13:00	演習3	藤川、富岡	03資料 3日目を参照	事例提供者の事例に対してチームアプローチの視点で検討する
14:30	次回に向けてインフォーマー	富岡	インターバル期間に行うことの説明する(研修の流れの説明)	ここでのインターバル期間の体験は省く
15:00	終了			

⑤モデル研修実施報告 (4日目)

モデル研修 4 日目は、天候不良のため大幅に時間を短縮せざるを得ない状況が発生したため、演習 3、演習 4 については省略した。講義は 1 日目の講義を踏まえ、事例を元に自立支援協議会の目的や運用を中心に行った。演習 1 では共通事例を元に、模擬的にストレン

グスモデルにおけるグループスーパービジョンを実施、ストレンクスにおける支援の効果や地域資源の活用方法などについての理解を図った。演習 2 では、模擬グループスーパービジョンを踏まえ、事例に対して地域資源の活用方法を検討する他、利用者が地域とつながることの必要性等について検討した。

10月29日(4日目)

10:00	オリエンテーション	富岡	研修を行う上での説明	
10:15	読義:コミュニティワーク	富岡	03資料 4日目を参照	
11:00	演習1	藤川、富岡	03資料 4日目を参照	共通事例
12:30	休憩			
13:30	演習2	藤川、富岡	03資料 4日目を参照	
14:00	演習3	藤川、富岡	03資料 4日目を参照	参加者の地域で行われている協議会の報告をする
14:20	演習4	藤川、富岡	03資料 4日目を参照	ヒアリングシートの記載、主任相談支援専門員の業務の確認等
15:00	終了			

資料 2-2 モデル研修参加者における事前・事後評価

分担研究者：大村 美保

1. 目的

相談支援専門員を中心に障害者相談支援事業に関する専門的な知見を有する者による、相談支援従事者現任研修のモデル研修の受講体験を行った。本研究は、研修内容の修正・確定に資することを目的に、研修の効果の測定及び研修内容の妥当性を検討してプログラム評価を行うため、研修受講の前後における自身の習熟度、及び研修内容についての評価・改善点を質問紙調査により把握し分析した。

2. 対象

埼玉県相談支援専門員協会及び神奈川県相談支援専門員協会に所属あるいは関与する相談支援専門員等延べ 58 名を対象とした。

3. 方法

現任研修のモデル研修（4日間）の参加者延べ 58 名に対して質問紙調査を行い、講習受講前と受講後それぞれの自身の習熟度に関する 5 段階での自己評価、及び講習・演習の内容資料に関する 4 段階での評価を依頼した。質問紙調査は、研修の日程に沿って 4 日間すべての日程で行い、それぞれの参加者に受講前 5 分間程度、及び受講後 10 分間程度を目途に記入を依頼した。調査票情報はデータセットに入力し、受講前と受講後の平均値で t 検定を行い、講義・演習の内容と資料については一元配置分散分析を行った。

4. 結果

(1) 受講前後での習熟度に関する自己評価の比較

1 日目講義「地域を基盤としたソーシャルワーク」の受講前の平均値は 3.43、受講後の平均値は 3.71 で、受講後は平均 0.28 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5% で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(13)=1.75, p=0.10>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は認められなかった。

2 日目講義「個別相談支援」の受講前の平均値は 4.07、受講後の平均値は 4.00 で、受講後は平均 0.07 ポイント下降した。平均値の差について有意水準 5% で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(14)=0.99, p=0.34>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は認められなかった。

3 日目講義「チームアプローチ」の受講前の平均値は 3.80、受講後の平均値は 3.69 で、受講後は平均 0.11 ポイント下降した。平均値の差について有意水準 5% で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(14)=0.58, p=0.56>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は認められなかった。

4日目講義「コミュニティワーク」の受講前の平均値は 3.00、受講後の平均値は 3.36 で、受講後は平均 0.36 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5%で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(12)=2.33, p=0.03>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は認められなかった。

(2) 各講義に対する評価

1日目講義「個別支援」の受講前の平均値は 3.92、受講後の平均値は 4.07 で、受講後は平均 0.16 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5%で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(12)=1.38, p=0.19>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は検出されなかった。講義「コミュニティワーク」の受講前の平均値は 3.21、受講後の平均値は 3.36 で、受講後は平均 0.15 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5%で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(13)=0.61, p=0.54>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は検出されなかった。講義「スーパービジョン」の受講前の平均値は 3.50、受講後の平均値は 3.86 で、受講後は平均 0.36 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5%で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(13)=2.11, p=0.05>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は検出されなかった。

2日目「個別相談支援」の内容について、評価得点の平均値はそれぞれ「演習 1」3.2、「演習 2」2.8、「演習 3」2.9 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差は検出されなかった ($F(2,37)=2.04, p=0.14>.01$)。2日目「個別相談支援」の資料等について、評価得点の平均値はそれぞれ「演習 1」3.3、「演習 2」2.8、「演習 3」2.8 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出され ($F(2,34)=5.62, p=0.007>.01$)、Bonferroni 法によりその後の検定を行ったところ、演習 1 と演習 2 の間で有意差が検出された ($p=0.006<.017$)。

3日目「チームアプローチ」の内容について、評価得点の平均値はそれぞれ「講義」3.6、「演習 1」2.9 であった。評価得点の平均に差があるか t 検定を行ったところ、有意差は検出されなかった ($p=0.017>.01$)。3日目「チームアプローチ」の資料について、評価得点の平均値はそれぞれ「講義」3.3、「演習 1」2.8 であった。評価得点の平均に差があるか t 検定を行ったところ、有意差は検出されなかった ($p=0.011>.01$)。

4日目「コミュニティワーク」の内容等について、評価得点の平均値はそれぞれ「講義」3.4、「演習 1」3.3、「演習 2」3.1 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった ($F(2,39)=1.57, p=0.22>.01$)。4日目「コミュニティワーク」の資料等について、評価得点の平均値はそれぞれ「講義」3.5、「演習 1」3.3、「演習 2」2.9 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった ($F(2,31)=3.43, p=0.05>.01$)。

5. 考察

(1) 受講前後での習熟度に関する自己評価の比較

受講前と受講後の習熟度の自己評価の比較では、1日目講義「地域を基盤としたソーシャルワーク」、2日目講義「個別相談支援」、3日目講義「チームアプローチ」、4日目講義「コミュニティワーク」の受講前の平均値は3.00～4.07、受講後の平均値は3.36～4.00と、受講前・受講後ともに習熟度の自己評価は高かった。また、受講前後で平均値に有意差は認められなかったが、1日目講義「地域を基盤としたソーシャルワーク」、2日目講義「個別相談支援」、4日目講義「コミュニティワーク」で平均0.07～0.36ポイント上昇し、3日目講義「チームアプローチ」のみ研修後の平均値が低下した。

今回のモデル研修は相談支援専門員を中心に障害者相談支援事業に関する専門的な知見を有する者を対象に行われたことを勘案すれば、1)参加者は初任者研修の内容に受講前段階から相当に習熟しており、2)各講義はそうした熟練した参加者であってもさらに内省と習熟を促すことのできる内容を伴っていたと理解できる。特に、3日目講義「チームアプローチ」では受講後の習熟度の自己評価が低下しており、3日目は他の日程に比べて講義内容の評価が高かった事実を踏まえると、講義を受講した参加者の内省の結果であると考えられる。

(2) 各講義・演習に対する評価

2日目～4日目の各講義・演習の内容に関する評価得点は平均値2.8～3.6、資料に関する評価得点は平均値2.8～3.5といずれも比較的高かった。一元配置分散分析の結果、各日の講義・演習の間では、2日目「個別相談支援」の資料「演習1」のみ平均値が有意に高かったほかは、評価得点の平均に有意差は認められなかったことから、モデル研修の内容・資料ともに全体をとおして概ね妥当であったと評価できる。

このうち、比較的高い評価得点であった講義・演習の内容は、3日目「チームアプローチ」のうち「講義」3.6、4日目「コミュニティワーク」のうち「講義」3.4であり、著しく低い評価得点をもつ講義・演習は見られなかった。本モデル研修において、現任研修のプログラムは現行プログラムに比べて大きく構成を変更したが、講義内容・資料ともに妥当であると参加者が共通して判断した結果であると考えられる。最終的なプログラムの確定にあたっては、初任者研修の内容や使用する様式との連動を図る必要がある。

講義名	講師		研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに○を記入してください				
地域を基盤としたソーシャルワーク	島村先生	研修前	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		(自由記述) 講義の内容について	(自由記述) 資料・教材・方法について				
個別相談支援	沖倉先生	研修前	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		(自由記述) 講義の内容について	(自由記述) 資料・教材・方法について				
チームアプローチ	鈴木先生	研修前	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		(自由記述) 講義の内容について	(自由記述) 資料・教材・方法について				

講義名	講師		研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに○を記入してください				
コミュニティワーク	島村先生	研修前	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		(自由記述) 講義の内容について	(自由記述) 資料・教材・方法について				
スーパービジョン	小澤先生	研修前	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		(自由記述) 講義の内容について	(自由記述) 資料・教材・方法について				

研修を受講してお気付きの点や感想があればご記入ください

講義・演習名	講師		研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに○を記入してください				
2日目 個別相談支援		研修前	知識・技術が まったくない	概念や考え方は知っているが 現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実 践することができる	自分で現場で実践でき、 他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に 使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術が まったくない	概念や考え方は知っているが 現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実 践することができる	自分で現場で実践でき、 他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に 使い、他の人にSVできる

演習 1 個別相談支援・ 個人ワーク	藤川 富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	《資料・教材・方法について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい
		(自由にご記入ください)					(自由にご記入ください)				

演習 2 グループワーク	藤川 富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	《資料・教材・方法について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい
		(自由にご記入ください)					(自由にご記入ください)				

演習 3 個人ワーク	藤川 富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	《資料・教材・方法について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい
		(自由にご記入ください)					(自由にご記入ください)				

研修を受講してお気付きの点や感想があればご記入ください

講義・演習名	講師		研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに○を記入してください				
3日目 チームアプローチ		研修前	知識・技術が まったくない	概念や考え方は知っているが 現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実 践することができる	自分で現場で実践でき、 他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に 使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術が まったくない	概念や考え方は知っているが 現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実 践することができる	自分で現場で実践でき、 他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に 使い、他の人にSVできる

講義	富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	《資料・教材・方法について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい
		(自由にご記入ください)					(自由にご記入ください)				

演習 1	藤川 富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	《資料・教材・方法について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい
		(自由にご記入ください)					(自由にご記入ください)				

演習 2	藤川 富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	《資料・教材・方法について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい
		(自由にご記入ください)					(自由にご記入ください)				

演習 3	藤川 富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	《資料・教材・方法について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい
		(自由にご記入ください)					(自由にご記入ください)				

研修を受講してお気付きの点や感想があればご記入ください

講義・演習名	講師	研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに○を記入してください					
4日目 コミュニティワーク		研修前	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
講義	富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	
		(自由にご記入ください)					《資料・教材・方法について》
演習 1	富岡 藤川	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	
		(自由にご記入ください)					《資料・教材・方法について》
演習 2	藤川 富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	
		(自由にご記入ください)					《資料・教材・方法について》

演習 3	藤川 富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	
		(自由にご記入ください)					《資料・教材・方法について》
演習 4	藤川 富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	
		(自由にご記入ください)					《資料・教材・方法について》

研修を受講してお気付きの点や感想があればご記入ください

資料 2-3 モデル研修参加者・インタビュー調査結果・考察

分担研究者：大村 美保

1. 目的

相談支援専門員を中心に障害者相談支援事業に関する専門的な知見を有する者に、相談支援従事者現任研修のモデル研修を受講体験してもらい、その内容についての評価及び改善点をインタビュー調査により聞き取り、研修内容の修正・確定に資することを目的とした。

2. 対象

埼玉県相談支援専門員協会及び神奈川県相談支援専門員協会に所属あるいは関与する相談支援専門員等 17 名を対象とした。

3. 方法

埼玉と神奈川の相談支援専門員協会ごとに体験したモデル研修の内容についてのフォーカスグループインタビューを実施した。その際、インタビューは研修の日程に沿って 4 日間に分けて行い、それぞれ研修終了後に実施した。なお、調査はそれぞれ 30 分をめぐりに実施した。その上で、インタビューデータを基に逐語録を作成し、それぞれの研修内容ごとの評価及び改善点について整理を行うこととした。

4. 結果

整理・分類を行い、以下の結果が得られた。

(1) 初任者研修との連動について

- 内容の連動性、ミクロ・メゾ・マクロでの視点の置き方の違いなど、現任研修と初任者研修の関係の明示が必要である。
- 初任者研修の振り返りに相当する内容（面接技術など）が必要ではないか。

(2) 個別相談支援

- 「基本相談」ではなく「相談支援」「一般的な相談」という用語がよいのではないか。もし「基本相談」を使うのであれば説明が必要である。
- ケアマネジメントプロセスの講義では、プロセスごとに意思決定支援を関連づけたほうがよい／講義で触れた技術について資料やポイントが示されるとよい／「診断」という用語は避け「見立て」などにするべき

- 「アセスメント」の用語の用法を明確にすべき

(3) コミュニティワーク

- 個別支援から地域支援への流れが意識できる内容とし、地域支援は主任研修の内容としてどうか。
- 協議会だけでなく、包括、児童、コミュニティソーシャルワーク、民生委員、インフォーマル資源等との連動を意識させるとよいのではないか。

(4) グループスーパービジョン

- アイデア出しとメンタリングのための一つの方法として示してどうか。

(5) 演習

- 演習様式の記入の宿題については義務化してどうか。
- 演習で使用する様式は通常業務で使用するものと異なるため、その理由や狙いを説明したほうがよいのではないか。
- 受講前にすべての様式への記入を課し、当該の演習が終わってから再度書くことで振り返りが行えるのではないか。
- 自由記述が多い様式は、受講者が記入できるかどうか。
- 様式はセルフチェックシートと関連させた様式としてどうか。
- エコマップの様式に工夫が必要ではないか。
- セルフチェックシートの活用方法について整理が必要ではないか。(①事前に日々の業務を振り返る、②受講後に日々の業務を振り返る、③個別事例の報告におけるチェック項目として用いる、など様々な用途が想定され、その目的に応じてインストラクションを変える必要がある)

(6) インターバル期間の課題

- 担当者会議までは必要ないのではないか
- 協議会の見学実施について周知を図るべきではないか

(7) 主任、委託、基幹との関係

- フィールドメンタリー、OJT、研修のファシリテーター、主任との関係の整理、主任の資質・研修の関係の整理が必要であり、現任研修の中でも可能な範囲で説明すべき。

5. 考察とまとめ

相談支援専門員を中心に障害者相談支援事業に関する専門的な知見を有する者に、相談支援従事者現任研修のモデル研修を受講体験してもらい、その内容についての評価及び改善点をインタビュー調査により聞き取り、それぞれの研修内容ごとの評価及び改善点について整理を行った。

その結果、概ね好評価であったが、参加者の多くは実際に研修を運営する立場であり、(1) 初任者研修との内容・様式の連動、(2) 個別相談支援における用語の定義と用法の統一、(3) コミュニティワークに関して理解到達水準の引き下げ、(4) グループスーパービジョンは方法論の一つとして提示、(5) 演習様式の変更・様式の提示方法や演習方法の工夫、(6) インターバルの期間設定と実施方法、(7) 主任、委託、基幹との関係の整理と提示、の大きく7点の論点が示された。本研修の狙いと目的に即し、これらの課題について検討を行い、研修プログラムの確定を行う必要がある。

資料 2-4 モデル研修の振り返りおよび考察

研究協力者：富岡 貴生

今回のインタビュー対象者は、エキスパートレビューということもあり、現任研修の受講者を対象としたものではない。そのため研修の内容についてはあまり触れられていないが、ファシリテーターとしての立場の意見が多かったことを踏まえ、2日目以降の見直すべき点や工夫等について述べる。

① 事前課題について

事前課題は、①事例の概要や支援過程をまとめたものを最初に作成、②3日目にエコマップを作成する、としていたが、ここでは最初から①②を事前に作成したほうが良いとの意見の他、地域資源の活用方法を検討する上でストレングスアセスメント表の追加、提出事例の選考には検討課題がしっかり提示できる事例、在宅事例、地域移行事例、現在進行形的事例、危機介入事例はふさわしくないなどの基準を設けることや作成しやすいよう参考例を示す必要性などの意見があった。これらは現行カリキュラムを進める上で必要なことから見直しを行うことを検討する必要がある。

②個別相談支援（2日目）

講義では、基本相談についての用語の整理が必要との意見があった。従来の基本相談として理解している人は良いが、サービス等利用計画の一部としての基本相談として理解している場合、事務的なものとして捉われてしまう恐れがある。そのため、ケアマネジメントプロセスとサービス等利用計画での基本相談の持つ意味をつなぎ合わせた説明が必要だと考える。次に、事例の説明の中で、①相談支援の各局面での意思決定支援の展開について、②重度障害者の意思決定支援の展開についての説明が必要との意見があった。しかし、意思決定支援ガイドラインではそこまでは触れられていない。インタークやアセスメントの局面での利用者の意志の確認や進め方等についての講義資料を作成するには、実際の支援を通して意思決定支援がどのように行われているのかを構造化する必要がある。

セルフチェックについては、講義後や演習の最後に行ったほうが良いとの意見の他、4日目の最後にまとめて行うなど様々な意見があった。そのため、セルフチェックを行う際のタイミングについてはカリキュラムの全体の流れを踏まえ再考したい。

事例報告・検討では、インターバル時に担当者会議を行うことを想定して課題の抽出を行うことを考えていたが、参加者の経験年数等によって支援レベルの差があり、アセスメントができていない段階の事例や支援課題が明確でありチームで共有する段階の事例など、支援課題の抽出にあたっては個人差が生じるとの意見があった。そのため、担当者会議に限定せず、個人の力量に合わせた課題を抽出し、インターバルを行ってくるという方法に変更したい。また、支援課題の抽出にあたってはグループで共有し、ファシリテーターが了解の上で実施してくるものとしたい。

② チームアプローチ（多職種連携）

講義では、チームが作られて行くプロセスの中で、相談支援専門員が力を入れる内容、箇所、苦労した点、多職種による価値観のズレに対しての調整方法など具体的なことをもっと知りたいとの意見があった。また、担当者会議の目的や進め方についても実践に当てはめた説明や、プランニングの説明も加えて欲しいとの意見があった。これらの意見から、チームアプローチの展開は教科書的には理解しているが、実際の支援の場面では事例によって展開が異なることから教科書通りに展開しないか、また意識せずにチームアプローチを行ってしまうなどの状況が実践場面に多くあることから、事例を通して具体的な展開を説明することでチームアプローチの生成過程を知り、参加者の理解度を深めたいということが考えられる。そのため、これらの意見をすべて組み入れることは難しいが、講義資料の事例に吹き出しを入れることで対応可能かと思われる。

事例報告・検討では、エコマップを追加して持ってくることになっていたが、最初から提示されていた方が検討しやすいとの意見が多かった。また、エコマップの中にチーム支援の目的が記載してあるとチームの役割も考えることが出るとの意見があったため、この点は書式等の工夫を検討したい。演習でチームアプローチについて検討するが、事例を中心に支援をどうするかといった検討に陥りやすい。そのため、チームの切り口にして事例を捉え、事例の理解や共有の程度、それぞれが役割を担えているかなどをファシリテーターが誘導することができないとチームアプローチの演習が機能しないことが伺えた。

インターバルでは、多くの受講生は自立支援協議会に参画しておらず、リアリティに欠けるため、基幹相談支援センター等を通して自分の市の協議会の状況を学ぶ他、専門部会等に参加することを通して実践に協議会を結びけいと考えていたが、自立支援協議会が機能している地域は良いが、機能していない地域についてはどうしたらよいかといった意見があった。地域の実情に応じてインターバルの内容を考えることは必要ではあるが、これらは運営側の課題であることから、相談支援専門員の負担の軽減を図るにも協議会が機能するよう体制を整えることが必要ではないかと思われる。

③ コミュニティワーク

講義では、事例の紹介がわかりやすかったが、さらに理解を深めるには参加者が地域の実情（地域資源や公的サービスなど）や自立支援協議会を理解していることが必要との意見があった。そのため、インターバルでは自立支援協議会の状況を把握してくることも、加えて地域資源マップなどを作成してくることも有効かと思われる。しかし、講義は協議会の話が中心であったが、相談支援専門員は協議会に参加している人が限られているため、実際の支援に結びつけることが難しいという意見や、自立支援協議会の活用は主任相談支援専門員レベルのことなのかもしれないとの意見もあり、コミュニティワークを身近な内容として捉えるには民生員と一緒に訪問した、近隣住民も巻き込んで見守り体制を作った、インフォ

一マルサービスを活用したなど、自分たちの支援の中に地域が繋がったという説明の方がコミュニティワークを実感しやすいのではないと思われる。

演習では、模擬グループスーパービジョンを行なうが、ストレングスモデルの説明や効果などの説明をした後に GSV を行った方が良いのではないかとの意見があった。また、演習時に地域資源の活用等を検討する際、ここでも受講生にとって自立支援協議会での内容が支援に結びつけて考えられているか疑問との意見があった。相談支援場面で身近にある地域資源に結びつけることが抜け落ちていることが多く、これらを飛び越しては自立支援協議会が遠いものと感じ、支援に生かされていない状況も考えられるため、現任者には、まずはグループワークの視点を通して地域資源に結びつけることがコミュニティワークの第一歩であることを理解することが必要と感じられるため、カリキュラムを再考していく必要がある

④その他

モデル研修を行っての反省点から見えたこととして、オリエンテーションでの説明が不十分なことから、その都度繰り返しの説明が必要であった。また 2 グループが違う理解のもとで演習が進められる場面もあったことから、研修統括やファシリテーターがカリキュラムを深く理解されない中で研修が行われると、グループごとに異なった理解のもとで演習が行われる可能性が示唆された。そのため、研修統括者やファシリテーターは、カリキュラムの目的や全体の流れ、獲得目標等を深く理解することが重要である。ファシリテーターの不足や育成が指摘されるが、カリキュラムの目的や理解とファシリテーションの技術的なことは別のことであり、カリキュラムの目的等が理解されていれば、ファシリノ技術的なことは統括や他のファシリがフォローすることは十分可能である。